

（心電図に対する苦手意識を克服したいあなたへ）



心電図道場

高階経和 著 AB判・248ページ

定価 2730 円(本体 2600 円+税 5%) ISBN 4-260-00108-6 医学書院 2005

評者

山内豊明

名古屋大学医学部教授・基礎看護学講座

このたび、『心電図道場』という画期的な書籍が上梓された。本書は、高階先生が臨床実践家としての50年以上の経験を、私たち後輩にいかにつまやくかについて、紙面にライブ展開したものである。

「日常語」「身体語」「臓器語」を聴き取るワザの伝授

患者さんからは、患者さん個人の生活体験を通して伝えられる「日常語」、患者さん自らの身体を通して医療者の五感に訴えることができる形で表現する「身体語」、そして検査などで読み取れる「臓器語」の3つの言語が発せられている。これらすべてを総合的に把握することで、患者さんを多面的・立体的に捉えることは、医療者として不可欠な能力であり、そのためにも医療者たるものは職種にかかわらず、それぞれに精通していなければならない。

心電図は、このうちで「臓器語」として最も身近にあるものであり、生体内の現象を私たちが把握できる形にしたものである。その把握については、ミネソタコードのような方式を適用すればパターン認識できないわけではない。しかし、私たち医療者のゴールは認識装置になることではないはずである。

本書は、単に心電図を収録し、その波形パターンを解説したものにとどまらない。心電図をパターンとして認識すること自体も不可欠な切り口であるが、

まず“どのような「日常語」や「身体語」を語っている患者さんの心電図であるか”から各章が始まっている。それに引き続き、パターン自体を間違いなく認識できているかについて確認し、次いでそのパターンの意味するところを理解していくように、根拠や理論背景と結びつけながら進む。

さらに本書の最大の価値は、その次の「ナースが行うケア」であろう。ここには豊富な臨床経験をお持ちの高階先生ならではの珠玉の言葉が散りばめられている。ここだけを集めても十分にあまりある内容であり、その一言ひとことから、患者さんの視点に立った臨床家の温かく深い思いを授かることができる。ここにあることは「ナースが……」ではなく、「医療者が……」と、あらゆる医療者が心すべきものであると確信する次第である。

達人に学ぶ幸せを味わいたい

本書がその名を「道場」というとおり、先生は私たちに単なる技法を教授するのではなく、「道」と呼ぶに相応しい本質的な捉え方を伝授してくださろうとしている。

本書を読み進めると、新人であった頃、経験の未熟な私に、指導者であった先輩が納得のいくまでとことん夜を徹してつきあってくださった日々を思い出さずにはいられない。マンツーマンで教わることが時間的にも難しくなっている今日、心電図のみならず臨床家としての達人である高階先生が、本書を開くたびに私たちのためにいくらかでもつきあってくれるのは、他には代え難い幸せであると思う。

■ご購入は、最寄の医書専門店または医学書院販売部 電話(03)3817-5657(直通)まで。
ホームページ(<http://www.igaku-shoin.co.jp>)からもお申し込みいただけます。